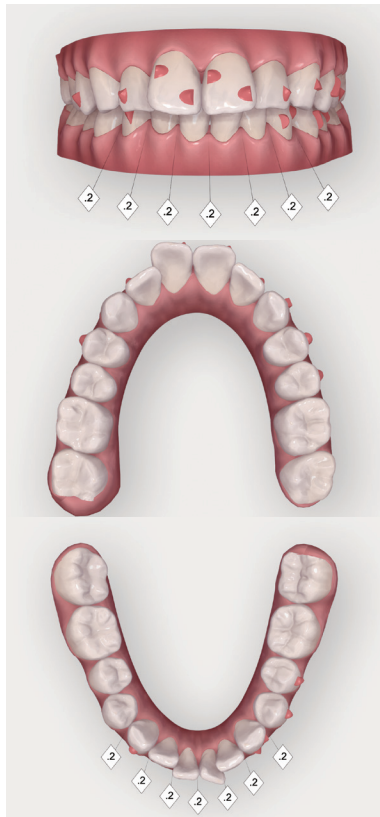


● シミュレーションにもとづいて治療計画の手順を確認

① 治療前の咬合状態 (バイトセット)

クリンチェック項目

最初の位置で表示されている3Dモデルが患者の咬合と一致しているか？



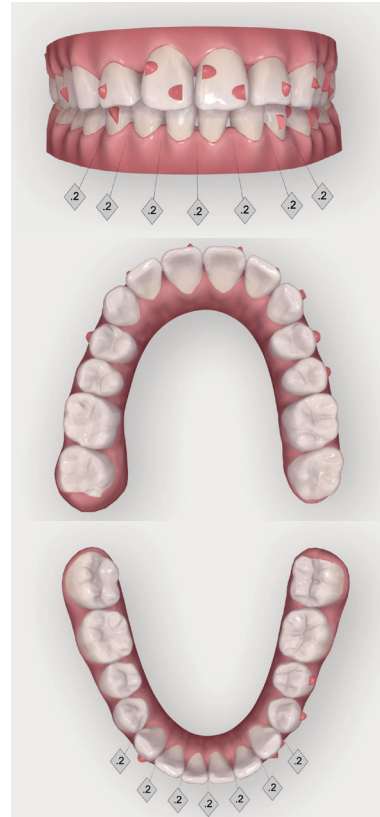
術者の診断コメント

顎位のズレのない患者であったため、ICPでの咬合採得を行った。ここでバイトのズレがあるとゴール設定が大きく狂ってしまうため、注意が必要である。

② 最終位置 (咬合と配列)

クリンチェック項目

- ・患者の主訴が改善されているか？
- ・審美的結果と咬合に問題はないか？
- ・患者と最終位置に満足しているか？



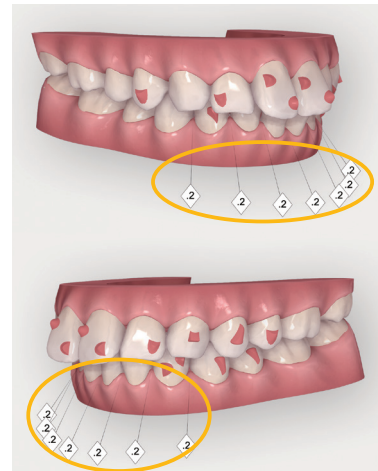
術者の診断コメント

中切歯2本の前突感が主訴であることがわかったため、前歯をどの位置まで並べたいか、ヒアリングした治療結果に移動させられるかどうかを確認する。

③ IPR (歯間削合)

クリンチェック項目

- ・IPR が計画されている部位、量は適切か？
- ・先生の具体的な指示に従っているか？



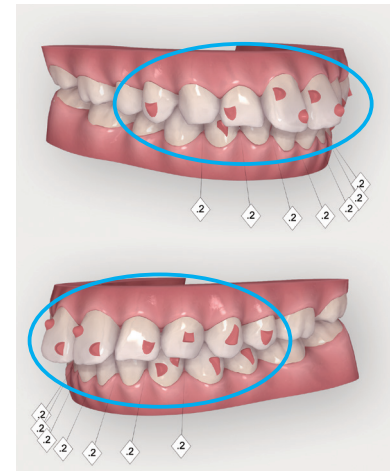
術者の診断コメント

より審美的に、また補綴学的安定性を得やすくするため、矯正の犬歯1級関係よりも Overjet・Overbite を少し深めに設定したいと考え、下顎のみ IPR を最小限行った。

④ アタッチメントとアライナー機能

クリンチェック項目

現在設置されているアタッチメントで、補綴歯や審美的理由などで、除去を希望するアタッチメントはないか？



術者の診断コメント

患者はモデルを目指している方であったため、アタッチメントにはトランスルーセントのコンポジットレジンを選択した。アタッチメントをつけないという選択も可能であるが、回転をとまう移動には力がかかりにくくなり、治療期間に時間がかかる。今回は上下顎に歯冠の回転移動があったため、アタッチメント付与を選択した。

⑤ 承認



Point

口もとの美しさをプロデュースする際、犬歯をやや2級気味、もしくは前歯部の Overjet・Overbite を少し深めに設定するとよいが、見た目だけでなくプラスその人に合った噛み合わせも考慮した治療を心がける。

図 1-2 CASE1 のクリンチェック分析。